

定期報告（ウルグアイ内政・外交：2021年9月）

1 ポイント

【内政】

●調査会社 Factum 社が9月に実施した調査によると、ラカジェ・ポウ大統領の支持率は61%（不支持率35%）。

●15日、ゼネストの実施。

●24日、性の多様性の尊重を訴える「多様性の行進」を実施。

●27日から30日にかけて、港湾労働者組合はモンテビデオ港での72時間に及ぶストライキを実施。

【外交】

●3日、アルベレチェ経済財務大臣はブラジルを訪問し、ゲーデス伯経済大臣と会合を実施。

●7日、ラカジェ・ポウ大統領は中国との二国間 FTA 交渉に向けた事前調査を早期に開始し、年内の完了を目指す旨発表。

●7日から9日にかけて、ブスティージョ外務大臣はエクアドルを訪問し、モンタルボ外務大臣と会合を実施。

●9日、第4回ウルグアイ・スウェーデン・ハイレベル協議がオンライン形式で開催。

●18日、ラカジェ・ポウ大統領は、ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体（CELAC）第6回首脳会合に出席。

●22日、ラカジェ・ポウ大統領は第76回国連総会に出席。

●22日、ウルグアイ・露社会保障協定が調印。

●23日、ラカジェ・ポウ大統領は国連食料システムサミットにオンライン形式で参加。

●27日、ラカジェ・ポウ大統領はピニェラ・チリ大統領と首脳会談を実施。

●28日、外務省及び経済財務省は中国との FTA に向けた事前調査を開始した旨発表。

2 本文

【内政】

1 最新の世論調査結果

9月1日から14日にかけて調査会社 Factum 社が実施し28日に公表した世論調査結果によると、ラカジェ・ポウ大統領の支持率は61%、不支持率は35%で、前回7月の同社調査結果と比較して支持率は5ポイント上昇し、不支持率は5ポイント減少した。

2 ゼネストの実施

15日、全国労働総同盟（PIT-CNT）が招集した24時間のストライキが行われた。ラカジェ・ポウ政権発足後3回目となった同ストライキでは、全国各地から多くの労働者が国会議事堂周辺に集結し、雇用政策の強化や緊急検討法の135の条文廃止等を主張した。

3 多様性の行進

24日、例年通り「多様性の行進」が実施され、数千人の人々が多様性を祝福しLGBTIQ+ コミュニティーの権利を求めてリベルタドール通りを国会議事堂に向けて5月1日広場まで約2km 行進した。参加者には常時マスク着用が義務づけられ、衛生規定を厳守しない者に対しては拡声器で注意を促す等の衛生措置が講じられた。

4 労働協約の期限切れによるモンテビデオ港でのストライキ

27日、港湾労働者組合（Supra）は、冷蔵品のコンテナ管理のための最小限の警備を除きモンテビデオ港での活動を72時間停止した。同ストライキは30日に終了した。同ストライキは数か月前から交渉されていたTCP社（注：ベルギー企業のKatoen Natie社が80%、港湾公社が20%の資本を保有する半官半民企業）と港湾労働者との間の労働協約の更新について合意が得られなかったことを受けたもので、同ストライキの実施を受け、モンテコン社をはじめとするモンテビデオ港で働く外部委託企業の労働者が連帯を表明し同様にストライキを実施した。30日、TCP社及びSupraは、期限切れとなった労働協約における進展を図るため、10月4日から8日にかけて新たな交渉の場を設けることで合意した。

5 新型コロナウイルスに関する主な動き

（1）ワクチン関連

ア 予防接種進捗状況

9月30日時点で、国民の77.18%（2,734,673名）が1回目のワクチン接種、72.55%（2,570,420名）が2回のワクチン接種を終了した。また、26.93%（954,267名）がファイザー製ワクチンによる3回目の接種を終了。

イ 3回目の接種

（ア）8日、厚生省は、ファイザー製ワクチンまたはアストラゼネカ製ワクチンによる予防接種プロセスを完了し、最後の接種から6か月以上が経過した60歳以上の全ての者に対するファイザー製ワクチンによる3回目の接種（追加接種）を承認した。

（イ）29日、ワクチン諮問委員会及び厚生省は、2回目のワクチン接種から6か月以上が経過した医療関係者に対するファイザー製ワクチンによる3回目の接種を承認した。新型コロナウイルスに感染した者についても、診断から6か月の待機期間が必要となる。

ウ ワクチン到着

（ア）1日、COVAXファシリティの枠組みでアストラゼネカ製ワクチン50,400回分が到着した（4月14日に48,000回分、5月14日に50,400回分が到着しており、今次到着分で同枠組みの初回割当分148,800回分が全て到着）。

（イ）6日、政府はパラグアイに対し、COVAXファシリティを通じて入手したアストラゼネカ製ワクチン48,000回分を供与した（本年6月18日にも12,000回分を供与済）。

（ウ）16日、ファイザー製ワクチン142,740回分が到着した。大統領府によると、7月1日からこれまでにファイザー製ワクチン2,015,150回分（米国からの寄贈分50万回分を含む）が到着した。

（2）変異株

9月17日、サリーナス厚生大臣は、デルタ株がすでに社会で循環しており、同変異株の感染症例が海外から持ち込まれたものではなくなったことが事実であるとする旨確認した。同日付の厚生省発表によると、これまでに確認されたデルタ株感染は402件、同日時点での感染者数は43名で、市中感染の規模は小さい。なお、大多数が国外から帰国した旅行者に関連している。

（3）国境及び国内制限措置

ア 1日、厚生省は長期滞在型高齢者施設の面会や外出制限を緩和する新たな規定を発表。

イ 1日、ウルグアイ国内に不動産を所有するワクチン接種済みの外国人（配偶者ま

たは内縁のパートナー、第二親等までの家族を同伴可) に対し国境が再開。

ウ 22日、フェリー会社「コロニア・エクスプレス」はコロニア・ブエノスアイレス間の運行を週3便の頻度で再開。

エ 28日、厚生省は、イベントやパーティーの衛生措置を更新し、10月4日からワクチン接種完了者のみが参加するイベント会場では定員を最大75%に緩和し、屋外最大収容人数は最大800人、屋内では600人とした。ワクチン未接種者を含む場合の定員は最大55%で、屋外最大収容人数は400人、屋内では200人とした。また、最大開催時間が6時間に延長された。

【外交】

1 アルヒモン副大統領（上院議長）及びフラッティ下院議長の欧州訪問

(1) 2日、フラッティ下院議長はスペイン下院を訪問した。

(2) アルヒモン副大統領（上院議長）及びフラッティ下院議長は、7日から8日にかけてオーストリアで開催された第5回世界議長会議に出席した。対面式で行われた同会議は、アルヒモン副大統領が出席した2020年8月の会合（オンライン形式）に続くもので、国連の協力の下、列国議会同盟（IPU）及びオーストリア議会が共同で開催した。また、同会議に先立ち、6日には「第13回女性議会議長サミット」が開催され、アルヒモン副大統領が出席した。

2 アルベレチェ経済財務大臣のブラジル訪問

3日、アルベレチェ経済財務大臣はブラジルを訪問し、ゲーデス伯経済大臣と会合を実施した。同会合は、メルコスール加盟国に対し、事前の承認を必要としない域外国との自由貿易協定を可能にするメルコスール「柔軟化」を要請する共同戦略を調整することを目的として行われた。

3 中国とのFTA交渉開始に向けた動き

(1) 7日、ラカジェ・ポウ大統領は全政党の代表との会合後、デルガド大統領府長官及びフェレス副長官同席のもと記者会見を開催し、ウルグアイ政府が6日に中国政府から「両国間の自由貿易協定の交渉を開始するというウルグアイ側の提案を高く評価し、歓迎」する書簡を受け取った旨発表した。同大統領は、中国との二国間FTA交渉に向けた事前調査（estudio de factibilidad）を早期に開始し、年内の完了を目指す旨発表した。

(2) 28日、ウルグアイ外務省及び経済財務省は、中国とのFTAの実現可能性調査（estudio de factibilidad）のための交渉チームが外務省及び経済財務省の指揮下で作業を開始した旨発表した。ロペス・ファブレガ外務大臣官房長及びラブラガ経済財務省通商政策顧問室長がコーディネーターを務める。同調査は中国側と共同で実施され、本年末頃に完了する予定。

4 ブスティージョ外務大臣のエクアドル訪問

9月7日から9日にかけてエクアドルを公式訪問したブスティージョ外務大臣は、モンタルボ・エクアドル外務大臣と外相会合を実施した。両外相は、両国を繋ぐ歴史的な友好・協力関係や166年にわたる外交関係を強調し、あらゆる分野において関係を強化し活性化する意向を新たに示した。また、2020年10月に開催された第7回政策協議での合意に基づき、エクアドル外交学校とウルグアイのアルティガス外交学校との間の覚書に署名した。

両外相は、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックに起因する経済・社会的危

機の克服、保健分野における優れた取り組みや経験の共有等の分野で、隔年での新たな二国間協力プログラムの交渉に関心がある点で一致した。

両外相は、メルコスール・エクアドル間の経済・貿易アジェンダを継続的に発展させる重要性を指摘し、経済補完協定（ACE）を更新する可能性の検討や、税関協力・円滑化協定の交渉への関心を示した。また、両国間の投資を促進するための二国間協定の交渉に向け、技術レベルでのやり取りを開始することで合意した。

5 第4回ウルグアイ・スウェーデン・ハイレベル協議

9日、第4回ウルグアイ・スウェーデン・ハイレベル協議がオンライン形式で開催され、アチェ暫定外務大臣、リュードベリ・スウェーデン外務大臣が出席した。共通の関心事項について有意義な意見交換を行う機会となった同実務者会合で、両代表団は人権、民主主義、法の支配の尊重に加え、環境保護、アジェンダ2030の実施、国連システムへの支持、投資促進、市場開放といった、ウルグアイ及びスウェーデンが共有する共通の価値観に基づいて二国間関係を評価し、今後も同様の政策協議を行うことで合意した。

6 ラカジェ・ポウ大統領と米州開発銀行総裁との会合

15日、ラカジェ・ポウ大統領は、南米訪問中のクレバー・キャローン米州開発銀行（IDB）総裁と会談を実施した。同総裁はウルグアイに国立ワクチン研究所が設立される可能性があることに特に関心を有しており、ウルグアイが同分野でのリーダーとなる可能性がある旨指摘した。

7 日・ウルグアイ外交関係樹立100周年記念式典

16日、日・ウルグアイ外交関係樹立100周年を記念して、アルヒモン副大統領兼上院議長及び眞銅前駐ウルグアイ日本大使出席のもと国会議事堂で記念式典が行われた。同記念式典にはサリーナス厚生大臣、マニーニ上院議員、ウルグアイ・日本友好議員連盟所属議員、100周年実行委員をはじめ多くの関係者が出席した。

8 ラカジェ・ポウ大統領の CELAC 第6回首脳会合への出席

18日、ラカジェ・ポウ大統領は、メキシコで開催されたラテンアメリカ・カリブ諸国共同体（CELAC）第6回首脳会合に出席し演説を行った。ラカジェ・ポウ大統領は CELAC の役割を評価する一方、同枠組みへの参加は米州機構（OAS）への各国の参加を不要にするものではない旨指摘した他、キューバ、ベネズエラ及びニカラグアでは完全な民主主義が存在せず人権が尊重されていないこと等を指摘し、同3か国の政府と対立した。また、パンデミックに関連して、各国政府のより一層の国際的な連帯を訴えた他、COVAX ファシリティによる新型コロナウイルス感染症に対するワクチン分配システムには欠陥があり、直接購入でワクチンを入手できなかった国は取り残されたとして批判した。

9 ラカジェ・ポウ大統領の第76回国連総会への出席

22日、ラカジェ・ポウ大統領は第76回国連総会に出席し演説を行った。同大統領は、新型コロナウイルスは国際社会の強みと弱みを明らかにし、人類全体の適応力が試された旨述べ、パンデミックにおけるウルグアイ国民の責任及び連帯を伴う自由の行使を評価し、地域におけるワクチンの不足と不公平な供給を批判した。また、自由に関連する3つの要素として、経済、人権侵害、気候変動に言及した。人権侵害については、ベネズエラ及びキューバの政治状況を背景に CELAC 首脳会合でマドゥーロ・ベネズエラ大統領及びディアスカネル・キューバ大統領と衝突したことについて、国名を伏せて言

及した。

10 ウルグアイ・露社会保障協定

22日、ウルグアイとロシアとの間の社会保障に関する協定の調印式が露労働社会保障省で実施された。ウルグアイ外務省プレスリリースによると、ロシアと中南米国との同分野における協定の締結は初であり、ロシアがウルグアイとの関係を継続的に深めていくことに特別な関心を有していることが改めて強調された。同協定により、両国の労働者は、両国で有効な社会保障法が規定する均等待遇の原則や権利保護の原則等の恩恵を受けることが可能となる。

11 国連食料システムサミットへの参加

23日、ラカジェ・ポウ大統領は、持続可能な開発目標（SDGs）達成のための「行動の10年」の一環として国連事務総長が招集した国連食料システムサミットにオンライン形式で参加した。同大統領は、ウルグアイの生産システムの特徴及び国の発展における右役割を踏まえ、ウルグアイにとっての食料システムの重要性を強調した。また、農産物の需要、消費習慣及び生産システムに関連した世界的傾向がもたらす課題や環境への影響に言及し、特に低炭素農業を実現するための気候変動に関する国家政策の視点を強調した。また、天然資源への影響を抑えてより多くのものを生産するための農業への投資及び技術革新の重要性を強調した。

12 ピニエラ・チリ大統領のウルグアイ訪問

9月26日から27日にかけて、ピニエラ・チリ大統領がウルグアイを公式訪問した。ピニエラ・チリ大統領によるウルグアイ訪問は、2020年3月1日のラカジェ・ポウ大統領就任式以来であり、今次訪問が2度目のウルグアイ訪問となった。27日、ラカジェ・ポウ大統領は大統領公邸でピニエラ・チリ大統領を迎え、首脳会談を実施した。両首脳は、新型コロナウイルス感染症によるパンデミック、光海底ケーブル導入の可能性及びウルグアイが特に重要視している議題である太平洋同盟等について議論した。同会談にはサリーナス厚生大臣、パリス・チリ保健大臣、ブスティージョ外務大臣、アラマン・チリ外務大臣が同席した。また、同首脳会談に先立ち、サリーナス厚生大臣及びパリス・チリ保健大臣は保健分野における協力に関する覚書に署名した。

【要人往来】

○往訪

- 3日、アルベレチェ経済財務大臣のブラジル訪問
- 4日～12日、パガニーニ工業エネルギー鉱業大臣の米国訪問
- 7日～10日、ブスティージョ外務大臣のエクアドル訪問
- 8日～10日、マツス農牧水産大臣のブラジル訪問
- 16日～24日、ラカジェ・ポウ大統領、ブスティージョ外務大臣のメキシコ及び米国訪問
- 18日～21日、アルベレチェ経済財務大臣の米国訪問
- 20日～22日、ダ・シルベイラ教育文化大臣のアルゼンチン訪問

○来訪

- 26日～27日、ピニエラ・チリ大統領